



北海道公立大学法人
札幌医科大学
Sapporo Medical University

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title 論文題目	Characteristics and perceptions of twice-weekly webinars for primary care physicians in Japan: a qualitative study. (日本のプライマリ・ケア医向けの週2回のインターネットカンファレンスの特徴と参加者による受け止め方)
Author(s) 著者	木村, 眞司
Degree number 学位記番号	乙第 3045 号
Degree name 学位の種別	博士 (医学)
Issue Date 学位取得年月日	2018-11-28
Original Article 原著論文	Int J Med Educ. 2018; 9:229-238; doi: 10.5116/ijme.5b6b.21e1
Doc URL	
DOI	
Resource Version	Publisher Version

学位論文の内容の要旨

報 告 番 号	乙第 3045 号	氏 名	木村 眞司
論文題名			
Characteristics and perceptions of twice-weekly webinars for primary care physicians in Japan: a qualitative study. (日本のプライマリ・ケア医向けの週 2 回のインターネットカンファレンスの特徴と参加者による受けとめ方)			
研究目的			
日本のプライマリ・ケア医の生涯学習を主たる目的とした無料の週 2 回のインターネットカンファレンスについて、その特徴と参加者の受け止めた価値を探る。			
研究方法			
質的研究方法を用いた。インターネットカンファレンスの参加者 6 人にフォーカスグループインタビューを行ない、ディスカッションを録音し、書き起こした。書き起こしたものは意味のあるセグメントに切り分け、理論的飽和に達するまでコード化した。選択的コーディングから概念を抽出し、概念をカテゴリー化した。			
研究成績及び考察			
抽出された概念は 5 つのカテゴリーに分類された：1. 技術的ブレークスルー、2. 学習機会の創出、3. 外部とのインタラクション、4. 内部のインタラクションの刺激、5. 全国に広がったことの利点と欠点。インターネットカンファレンスは以下のように受け止められていた：居心地のよい学習環境を提供している。医師達がお互いに教え合うことを可能にしている。経験を分かち合い、バーチャルな同僚となることを可能にしている。チャットシステムは発表者と参加者のリアルタイムのインタラクションを刺激し、また、参加者間のインタラクションをも刺激している。参加者はストレスのない環境で質問したりコメントしたりすることができた。また、これらのインターネットカンファレンスは参加施設の内部においても、セッションを邪魔することなくリアルタイムのインタラクションを惹起していた。さらに、参加者は営利企業であるスポンサーがないことをも高く評価していた。インターネットカンファレンスの拡大により 2 つの懸念が挙げられた。発表者が緊張することと、オーガナイザーの負担が増大することである。			

結論

これらのインターネットカンファレンスは、心地よくしかも多面的なインタラクションが可能な学習環境の中で、バイアスのない情報や経験を共有することを可能にしている。そのことにより参加者がつながっていると感じることを可能にしている。チャットシステムは対面の学習機会では不可能なインタラクションを可能にしており、インターネット上の医学教育における大きな可能性がある。

論文審査の要旨及び担当者

(平成 30 年 11 月 28 日授与)

報告番号	乙第 3045 号	氏 名	木村 眞司
論文審査 担 当 者	主査 山本 和利 教授	副査 辰巳 治之 教授	
	委員 小林 宣道 教授	委員 相馬 仁 教授	

論文題名	Characteristics and perceptions of twice-weekly webinars for primary care physicians in Japan: a qualitative study. (日本のプライマリ・ケア医向けの週 2 回のインターネットカンファレンスの特徴と参加者による受け止め方)
結果の要旨	<p>● 本研究では、日本のプライマリ・ケア医の生涯学習を主たる目的としたインターネット上の学習会についてその特徴と参加者の受け止めた価値について調べた。これらのインターネットカンファレンスは、心地よくしかも多面的なインタラクションが可能な学習環境の中で、バイアスのない情報や経験を共有することを可能にしている。そのことにより参加者がつながっていると感じることを可能にしている。チャットシステムは対面の学習機会では不可能なインタラクションを可能にしており、インターネット上の医学教育における大きな可能性があると考えられた。</p> <p>● 論文に載せられなかった資料も含めて、札幌医学雑誌等に投稿してほしいという意見が審査委員一同から出された。</p> <p>● 申請者の論文は博士（医学）の学位授与に値すると審査委員全員に認められた。</p>